

ゴルフ場・公園の大切な松を松くい虫から守る!

スミパイン[®] 乳剤

松を枯らすマツノマダラカミキリを防除しながら
キクイムシ類、ゾウムシ類、シンクイムシ類、マツカレハなど
松の害虫を同時に防除できます。

カシノナガキクイムシ
にも適用拡大!!



サンケイ化学株式会社

殺虫剤

有効成分：MEP…80.0%
危険物：第5類危険等級Ⅱ

スミパイン[®] 乳剤

●地上散布における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

登録内容は2012年7月25日現在

作物名	適用病害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期	本剤及びMEPを含む農薬の総使用回数	使用方法			
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ成虫	150～200	3L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期 及び 発生最盛期直前	6回以内	散布			
まつ (衰弱木・ 枯損立木)	キクイムシ類 ゾウムシ類	80～120	-	-					
まつ	マツカレハ	1000～1500		-			幼虫期		
まつ類	ハバチ類	1500～2000						-	成虫の発生最盛期
	ハマキガ類	1000～1500							
	マツバノタマバエ	250							
	シンクイムシ類	250～500							
	ミスジツマキリエダシャク	1000～1500	幼虫期						
樹木類 (倒木、 伐倒木)	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50～150	300～600 ml/m ²	伐倒・風倒直後樹皮下 及び材内生息期					
	スギザイノタマバエ	50～100	400～600 ml/m ²	樹皮下及び 材内生息期					
	スギカミキリ	100～300		伐倒・風倒直後樹皮下 及び材内生息期					
樹木類	スギカミキリ	50～100	500ml/m ²	成虫の発生初期 又は直前	樹幹散布				
	カシノナガキクイムシ	50							
	スギザイノタマバエ	100～200							
		カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50～150	300～600 ml/m ²	幼虫期	散布			
	ヤマダカレハ	1000							
	エダシャク類 マイマイガ ドクガ類	1000～1500							
	スギタマバエ	250～500							
		ヒノキカワモグリガ	200～300	-	成虫の発生直前～ 発生最盛期直前 (6～7月)	樹冠及び 樹幹に散布			
さくら	コスカシバ	100～300	成虫発生期		散布				
ほだ木	カミキリムシ類	350	-	成虫発生初期 及び産卵期 (ほだ木の伏せ込み期)	2回以内	散布 (ほだ木及びほだ 木用笠木を同時に 防除する場合は希 釈倍数を350倍と する。)			
ほだ木用 笠木		40							

●空中散布における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤及びMEPを含む農薬の総使用回数	使用方法
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ成虫	4～6	800ml/10a	成虫の発生直前より 発生最盛期直前	6回以内	空中散布 (10a当り投下薬量は本剤200ml、 但し、微害林では130～200mlとする。)
		15～45	3～6L/10a			
		60～180	12～24L/10a			
		80～160	3L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期		
		150～200		成虫の発生初期 及び 発生最盛期直前		
まつ (枯損立木)	マツノマダラカミキリ幼虫	80	5L/本 (樹高10m)	幼虫期 (秋期)	空中散布 (単木処理)	
	マツノマダラカミキリ (材内生息虫)		5～10L/本 (樹高10m)	成虫の発生前 (春期)		
まつ	マツカレハ	8	800ml/10a			空中散布
		100	6L/10a			
まつ類	ハバチ類	100～200	3～6L/10a	幼虫期	6回以内	空中散布 (10a当り投下薬量は本剤30～ 60mlとする。)
		16	800ml/10a			
	ハマキガ類	50～100	6L/10a	空中散布		
	キクイムシ類	40	5L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期		空中散布 (単木処理)
	ミスジツマキリエダシャク	8	800ml/10a	幼虫期		空中散布 (10a当り投下薬量は本剤100ml とする。)
30		3L/10a				
まつ類 (風倒木)	キクイムシ類	原液	750ml/10a	成虫の発生直前	空中散布	
樹木類	エダシャク類	8	800mL/10a	幼虫期	6回以内	空中散布 (10a当り投下薬量は本剤60mL とする。)
		30	3L/10a			
	マイマイガ・ ドクガ類	50～100	3～6L/10a	若令・中令幼虫期		
		8	800mL/10a	幼虫期		
	ヒノキカワモグリガ	30	6L/10a	成虫の発生直前～発生 最盛期直前 (6～7月)	空中散布	

●無人ヘリコプター散布における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤及びMEPを含む農薬の総使用回数	使用方法
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ成虫	18	3L/10a	成虫の発生直前より 発生最盛期直前	6回以内	無人ヘリコプター による散布

●根部浸漬における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
樹木類	オオハリセンチュウ	500	—	移植前	1回 (MEPを含む 農薬の総使用 回数6回以内)	30分間根部浸漬

スミパイン乳剤の特長

広範囲の害虫に適用

スミパイン乳剤はマツノマダラカミキリの成虫や幼虫以外にも、松を加害するクイムシ類、ゾウムシ類、マツカレハなどに有効で、広範囲の害虫の同時防除が可能です。

多彩な使用方法

マツクイムシ防除では、空中散布における「液剤少量散布」を初め「液剤散布」および「ガンノズル散布方式」、さらに「無人ヘリコプターによる散布」と地上散布だけでなく多目的な使用が可能です。

耐雨性に優れた製剤

散布されたスミパイン乳剤は樹皮などに速やかに浸透し、散布後の有効成分は降雨による流亡が少なく、安定した防除効果が期待できます。

確かな安全性

スミパイン乳剤は有効成分を高濃度化した有機溶媒を含まない製剤です。各種の試験において本剤の安全性が確認されています。

使用上の注意事項

共通事項

- アルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- 対象樹種がヒノキの場合、一部のヒノキで落葉現象が生じることがあるため、あらかじめ切枝に薬剤を散布し、落葉が生じない樹であることを確認の上、散布してください。
- 本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするものであり、成虫発生直前又は発生初期に時期を失しないように散布し、更に20日後（成虫発生最盛期直前）にもう一度散布すると効果的です。
- マツノマダラカミキリ成虫に対する150~200倍液の地上散布及び空中散布の単木処理をする場合、散布液量は樹高10mの松1本当り3Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布してください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 本剤を樹幹散布に使用する場合、蘚苔類に被害を生じる場合がありますので、散布液がかからないよう注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ② 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。

地上散布における注意事項

- 本剤による伐倒木処理の場合、厚皮部のカミキリムシ類やゾウムシ類には薬液を多目に散布してください。
- 本剤による伐倒木処理の場合、降雨直後または雨天の散布はさけ樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布してください。
- さくらのコスカシバに対しては、その発生に応じて2~3回散布をしてください。

空中散布における注意事項

- 空中散布による単木処理の場合は、専用の鉄砲ノズルを用い、対象木の樹冠部を中心に適確に散布してください。又60~180倍液（12~24L / 10アール）で空中散布する場合は、限定された地域（林分）を対象として単木処理に準じた方法（鉄砲ノズル）で適確に散布してください。
- マツノマダラカミキリ幼虫に対する空中散布の単木処理をする場合、散布液量は樹高10mの枯損立木1本当り5Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹幹と枝にむらなく散布してください。
- マツノマダラカミキリ成虫防除（空中散布）の場合の投下薬量は、10アール当り本剤200mlを基準とすると、微害林に使用する場合はその程度に応じて130~200ml内の一定量としてください。投下薬量は希釈倍数及び10アール当り散布液量を所定の範囲内で調節して、所要の薬量になる

ようにしてください。

- 本剤を大型散布機（ヘリコプターなど）で使用する場合は、各散布機械の散布基準に従って実施してください。
- 本剤を空中散布用薬剤として使用する場合は次の注意を守ってください。
- 散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意してください。
- 本剤を空中少量散布（4~6倍液）に使用する場合はさらに次の注意を守ってください。
 - ① 微量散布装置以外の散布器具は使用しないでください。
 - ② 散布中薬液の漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ③ 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
 - ④ 散布終了後は次の項目を守ってください。
 - (a) 使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄してください。
 - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。

無人ヘリコプター散布における注意事項

- 本剤を無人ヘリコプターにより散布する場合は、対象松林の梢端が見える場所で行ってください。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用時は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするのと同時に衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、少なくとも使用当日（小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください）。
- 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 空中散布又は無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管してください。



取扱い



サンケイ化学株式会社

本社・鹿児島工場 〒891-0122 鹿児島市南栄2-9 ☎(099)268-7588(代)
東京本社 〒110-0005 東京都台東区上野7-6-11 ☎(03)3845-7951(代)
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島2丁目14-6 ☎(06)6305-5871
九州北部営業所 〒841-0025 佐賀県鳥栖市曾根崎町1154-3 ☎(0942)81-3808

NIK-1207-50T